２０１９年5月２３日

市議会議長
小林雄二　様

刷新クラブ　視察研修報告

１．日程　　２０１９年5月１９日（日）～5月２２日（水）

２．視察先　・北海道　　小樽市
　　・北海道　　登別市
　　・北海道　　七飯町

３．参加者　　田中和末、田村隆嘉、得重謙二　　計　３名

４．調査事項　・小樽市　　：観光イノベーション事業について

　　・登別市　　：土曜授業推進事業ついて

　　・七飯町　　：道の駅なないろ・ななえについて

小樽市：観光イノベーションについて

《説明内容》

小樽の沿革と概要
観光の概要
観光基本計画・宣言
観光推進体制

《所感》

別紙参照

登別市：土曜授業推進事業について

《説明内容》

登別市の概要
取組の背景、導入の経緯
土曜授業の取組内容
土曜授業の効果・成果
登別版「コミュニティスクール」の概要

《所感》

別紙参照

七飯町　：道の駅なないろ・ななえについて

《説明内容》

七飯町の概要
整備概要
設置目的
地域振興、地域連携の取組
THE　DANSHAKU　ROUNGE　の経営

《所感》

別紙参照

以上

視察報告

刷新クラブ　　田中和末

小樽市　「観光イノベーション事業について」

小樽市は、北海道有数の港湾都市として発展してきており、観光事業も港（とりわけ運河）と大きく関わっている。こうしたことから観光推進室も産業港湾部に属しており、他市とは大きく異なっている。小樽運河は、昭和61年に整備され、運河周辺の歴史的建造物、また100店舗を超える新鮮な海産物、寿司店等が店を構え、年々観光客が増え続け、平成29年度には800万人を超えるまでになった。札幌駅から電車で30分、千歳空港から約 70 分で訪れることができるという強みの一方で宿泊客については伸び悩んでいるのが現状である。これまでの事業をさらに前進させるとともに宿泊客の増加を目指すために「小樽版DMO」の設立をはじめ、文化財等の観光資源化事業、インバウンド対応事業（多言語マップ等）、夜の観光活性化事業が進められている。本市においても宿泊客の増加に向けて夜の観光事業を取り組んでいるが宿泊施設の整備、誘致が不可欠と感じた。

登別市　「土曜授業推進事業について」

登別市においては、平成26年度より平日に子どもと向き合う時間の確保を目的に月 1 回程度の土曜授業を実施している。これは、平日の授業時数をカバーすることのみを目的とするものではなく、平日の授業時数削減による学校生活のゆとりを創出するとともに、コミュニティスクールや学校支援地域本部との連携を推進し子どもの生きる力の育成、地域

の教育力の向上、学校を核とした地域ネットワークの形成を図るものである。この間の取組の成果としては、通常授業に余裕が生まれただけでなく、地域との関わり、深まりが強くなり「社会に開かれた教育課程」の前進が図られている。本市においてもコミュニティスクールを行っているが、内容の工夫や地域の参加態勢など見直しすべき点があるように感じた。

七飯町　「道の駅　なないろ・ななえについて」

道の駅なないろ・ななえは、平成29年に完成し、平成30年度の売上は4億211万円、来場者は約105万人で道内ランキング第3位となっている。地域振興という点では、町内に多くある食品加工会社は、これまで函館市や近隣での販売が主であったがこの施設の整備により、町内産品を一堂に会して販売することができるようになり、地域産業に活力を与えることとなった。また、これまで流通に乗らなかった個人の生産者が販路を拡大することができるなど物産振興の拠点となりつつある。

併設されている「THE　DANNSHAKU　LOUNNGE」は、男爵いも生みの父である川田龍吉資料館は、民間活力による施設であるが、開拓時の様々な農機具や資料が展示されており一見の価値がある。また、若い人向けの商品も販売されており楽しめるスペースとなっている。参考にすべき施設であった。

行政視察報告

報告者　：　田村隆嘉

【北海道小樽市　　観光イノベーション事業について】

古くから北海道有数の物流拠点港として発展し、都市銀行や商社があり、活発な取り引きが行われていたが、第二次世界大戦後に経済情勢や流通機構の変化によって、雑穀、海産物の卸商は衰退し「斜陽都市」といわれた。

経済再興のため札樽自動車道建設、大型フェリー就航、港湾施設の整備、駅前再開発などの施策を進められた。利用されていなかった「小樽運河」の埋め立て論争の結果、一部埋め立て、道路拡幅によって現在の形になった。

現在では運河の景観に加えて、歴史的建造物、海産物グルメの飲食店、イベントの開催等によって観光入客数は増加傾向にあって、平成２９年度は８００万人を超えている。インバウンドへの対応として多言語マップ、Wi-Fi 整備、観光案内所、海外プロモーション等に取り組まれている。また、さらなる観光振興を目指した、フィルムコミッションや DMO 立ち上げに取り組まれている。宿泊客増を目指しているが宿泊施設の整備が課題であろう。また、歴史的建造物の活用が必要と感じた。

【北海道登別市　　土曜授業推進事業について】

平成２６年に推進地区に指定され、教育課程に位置付け、月１回程度、市内の全小中学校（小：８校、中：５校）で実施されている。

その目的を①地域、家庭と連携し土曜日の子ども」の生活・教育環境を充実②教育課程に位置付け授業時間に余裕をもたせる③平日と連続した学習環境の向上につなげる④平日の授業時数削減による学校生活のゆとり創出とされている。その内容は地域避難訓練や伝統芸能の承継、学力向上対策、米作り体験、ケータイ・スマホ安全教室や地域清掃活動など公開授業として実施されている。土曜授業の啓発によって保護者、地域住民の参加が増加し、評価も上がっている。継続して実施するにはコーディネーターの確保が課題であるが、その処遇について見直す必要があるように感じた。

【北海道七飯町　　道の駅なないろ・ななえについて】

平成２７年度に基本計画を策定し、平静２９年月に完成した道内１２１番目の道の駅で、総事業費は１０億６千万円である。西洋式農法発祥の地として歴史的遺産を継承、「食歴史・文化」にスポットを当てた情報発信施設で、平成３０年度の売上は４億２１１万円、来場者数は１０５万人で道内ランキング（じゃらん）は３位である。町内産品を一堂に会して販売する唯一の施設となっている。道の駅周辺の飲食店と競合しないよう、商品や飲食の提供内容を留意されている。道の駅解説後、民間活力導入事業で「THE　DANSHAKU　LOUNGE」が建設された。また、今後、近隣地に民間の入浴施設が建設される予定もあり、さらなる集客が期待される。建物内には綺麗なトイレやキッズスペース、イベントに使える”セブンスリビング”や無料休憩スペースがあり、大変使いやすいと感じた。

以上

行政視察報告書

報告者　　得重謙二

1．会派名　　刷新クラブ（田中・田村・得重）
2．視察日時　　令和元年5月20日（月）9:00～11:00
3．視察場所　　北海道小樽市
4．視察項目　　観光イノベーション事業について

5．概要

第二次世界大戦後の経済情勢や流通機構が大きく変わったため、大正12年に完成した「小樽運河」が無用となり、埋め立て計画が持ち上がったが、住民と行政で十数年の論争を経た結果、一部埋め立ての折衝案をもって決着し、昭和61年に現在の小樽運河が整備された。これを契機に観光客が訪れるようになり、平成29年度には年間の観光入込客数806万人を突破したが、道内客が7割、小樽市内に宿泊する客は全体の1割程度にとどまっていることから、滞在時間をいかに延ばすかが大きな課題となっている。明日の小樽を支える観光イノベーション事業～「ノスタルジーマーケティング」は、今後の小樽観光振興の中心となり、「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、官民が協同しながら観光基本計画や観光戦略を確実に実施するための調整機能を備えた組織である「小樽版ＤＭＯ」を設立し、小樽に豊富に存在している多様な地域資源（歴史的建造物、景観、美しい自然、海洋資源、商店、飲食店、食文化、風習など）を磨き上げて観光資源化し、小樽観光がノスタルジックな魅力を生かし将来にわたって発展し続けていくために展開されている事業である。

6．所感

行政と観光協会が協力し、国内外から観光客を誘致し、かつ小樽での滞在時間を延ばすべく取り組んでおられた。特に海外旅行者をターゲットにインフォメンターセンターやガイドマップの多言語化、フリーWi-Fiの整備に力を入れられ、新たな取り組みとして、ロケツーリズムを推進されていた。本市も徳山高専や大学などでロケツーリズムの推進を考えてみるのも一考あると思う。

行政視察報告書

報告者　　得重謙二

1．会派名　　刷新クラブ（田中・田村・得重）
2．視察日時　　令和元年5月21日（火）9:30～11:00
3．視察場所　　北海道登別市
4．視察項目　　土曜授業推進事業について

5．概要

平成25年、文部科学省の「土曜授業に関する検討チーム」が、学校、家庭、地域の三社が連携し、役割分担しながら学校の授業、地域での多様な学習、体験活動機会の充実等に取り組むことで、土曜日の教育環境を豊かにすることが必要と発表したことから、平成26年、北海道が「土曜日の教育活動推進プラン」を立ち上げ、登別市を含めた推進地区に指定された区域からスタートした歴史をもつ。主な目的は、地域・家庭と連携し土曜日の子どもの生活・教育環境を充実させることや、教育課程に位置付け授業時数に余裕を持たせることにあるが、土曜日授業の実施に当たては、教員の勤務時間、休暇等に関する規則中、週休日の振替に関する制度を改正する必要があった。土曜授業は、月に1日程度を計画し、特徴として、単なる授業にとどまらず、地域やコミュニティスクールと一体となった取り組みとなっていた。

6．所感

通常の授業に加え、地域との合同避難訓練や芸術鑑賞会、地域行事（清掃活動）への参加なども土曜授業に計画されており、コミュニティスクールと一体となった取り組みとなっていたが、実際に授業を受けている児童・生徒に対するアンケート、教員に対するアンケートを実施し、土曜授業に対する意見や成果を検証する必要性を感じる。山口県防府市の土曜授業に対するアンケートの結果では、児童生徒の41%が成果を感じておらず、教員も同数の41%が土曜授業はやめて欲しいと回答している。

行政視察報告書

報告者　　得重謙二

1．会派名　　刷新クラブ（田中・田村・得重）
2．視察日時　　令和元年5月21日（火）15:00～16:00
3．視察場所　　北海道亀田郡七飯町
4．視察項目　　道の駅ななえいろ・ななえについて

5．概要

西洋式農法発祥の地ななえいろ・ななえは、平成30年3月に道内121番目の道の駅として歴史的遺産を継承する他、地元生産品に付加価値をつけ「食歴史・文化」にスポットをあて、町の魅力を最大限に発揮することのできる情報提供施設として開業した。

駐車場　179台（大型車23台、普通車148台、身障者用8台）
本体棟　鉄筋平屋建て　延床面積986.26㎡
屋内施設　24時間トイレ（男性：小9　大5、女性：12、身障者用1）
特産品売場、無料休憩スペース、展示ギャラリー、案内カウンター
カフェキッチン、テナントスペース、キッズコーナー
地域交流スペース
屋外施設　ポケットパーク、水景施設、サイクルステーション、キャノピー
民間活力施設　民間事業者：㈱男爵倶楽部（敷地面積：2,000㎡、延床面積1,600㎡）

6．所感

道の駅ななえいろ・ななえは、1日に2万台の車が通過する国道5号線沿いに立地する。七飯町自体は海に面しておらず、基幹産業である農業は、水稲をはじめ、大根、ネギ、ニンジンなどの畑作、リンゴ、ブドウなどの果樹と生産品目が多岐にわたりカーネーションなどの花卉栽培も盛んなことに加え、西洋式農法発祥の地であり、日本で初めて男爵いもの栽培がおこなわれたことを全面的に打ち出していた。

個人の生産者が、道の駅で販売・流通のノウハウを得ることにより、今まで以上に販路を拡大できるなど、町の生産者の物産振興にも貢献している一方、近隣の飲食店や土産商店と商品や飲食の提供内容が同様にならないように運営されており、地域の方々と共存共栄する手法で運営されていた。雑誌「じゃらん」に取り上げれれ今後益々増客することが予想され、民間活力導入事業による川田龍吉資料館を見学するだけでも価値のある展示がされていた。周南も「売る」「見せる」「遊ぶ」を区分けする工夫を学びたい。